

平成二十四年十月十五日

京都大學の山中伸彌教授、ノーベル醫學・生理學賞を授與せられたる由報道あり。會見にて教授語りて曰く、我が一日、一月は、患者が一日、一月の重みと同じにはあらざれば、いよゝ研究に勵むべしと。

謙虚なる發言に打たれたる心地せり。

醫學部入試には面接試験あるらし。成績のみならず人品すぐれて良き學生を選拔せむとてのこととぞ聞きたる。

去年三月、大地震が被害を知りたる時の總理「假設住宅入居は夏に完了すべし」と述べけり。我は落膽せり。被災したる人が一日の重みに配慮せざる發言なりし故にやと、思ひ至りぬ。

別の日、シュテファン・ツヴァイク著『マリー・アントワネット』讀みやるほどに、面白き指摘あり。國庫の拂底、市民の飢ゑを知り給はず、浪費やまざりける王妃は確かに無知にておはせしが、王宮に生れ給ひ、王權神授説に基づきて教育受給ひたる高貴の人におはしたれば、蜂起しける市民の要求せしところに驚きて、これを不當と感じ給ひけるも道理と。

人は他人が一日の重み、他人が財の重みを考慮すべし。ただ、必ずしも萬人は氣付き、或は知ることを得ず、爲に支持を失ひて時には王冠、生命さへ奪はる。

然れど、思ふに、生命は代價にならじ。自覺しける極悪人は別なれども、おのが罪を知り給はざりける人を怒りて殺害せるは、裁きにあらざりてさながら私刑の如し。裁きし彼らもまた、王妃が背景に配慮せざりければ、同じく傲慢といふべし。